

貸借対照表・損益計算書の構成と着眼ポイント

井村清志

ここでは、貸借対照表と損益計算書について、仕組みや構成、見るべきポイントを解説します。

●貸借対照表のサンプルと見方のポイント

資産の部		金額	負債の部		金額
流動資産		168	流動負債		158
現預金	35	支払手形	5		
受取手形	21	買掛金	53		
売掛金	43	短期借入金	50		
有価証券	5	未払金	14		
商品・製品	33	未払費用	5		
仕掛品	5	未払法人税等	4		
原材料・貯蔵品	12	前受金	3		
前払費用	10	預り金	2		
短期貸付金	10	前受収益	2		
その他	6	賞与引当金	6		
貸倒引当金	▲12	その他	14		
固定資産		178	固定負債		125
有形固定資産		70	長期借入金		114
建物・構築物	20	退職給付引当金	5		
機械装置	12	その他	6		
車両運搬具	8	負債合計		283	
工具器具備品	5	純資産の部		金額	
土地	12	株主資本		68	
建設仮勘定	5	資本金	30		
その他	8	資本剰余金	3		
無形固定資産		18	利益剰余金	35	
ソフトウェア	13	自己株式	0		
のれん代	3	純資産合計		68	
その他	2				
投資その他の資産		90			
投資有価証券	39				
関係会社株式	13				
長期貸付金	34				
その他	7				
貸倒引当金	▲3				
繰延資産		5			
ソフトウェア開発費	5				
資産合計		351	負債・純資産合計		351

現預金を平均月商の何ヵ月分保有しているかを見る。多ければ多いほどよい

長・短貸付金があれば貸した相手と発生理由を確認する

売掛金を平均月商の何ヵ月分保有しているかを見る。3ヵ月を超える場合は回収不能を疑う

総称は棚卸資産。平均月商の何ヵ月分保有しているかを見る

平均月商の何ヵ月分の長・短借入金があるかを見る。6ヵ月超なら返済負担が重くなっている

①貸借対照表の見方のキホン 現預金・売掛金・棚卸資産・貸付金・借入金に着目し数値や平均月商対比を確認

貸借対照表とは、ひとことでいえば企業の財政状態を総合的に示した表といえます。「B/S」と表記されますが、これは英語でバランスシート (Balance Sheet) と呼ばれるためです。貸借対照表は、通常、半年ごとや1年ごとといった決算期末時点で作成されます。一定時点の財政状態が表されているのですが、記載内容は企業が誕生してから当該決算時に至るまでの事業活動の結果ともいえます。

貸借対照表は、事業活動に欠かれない資金をどのように調達して何に使用しているのかを表します。貸借対照表の形は基本的に長方形をしており、左右に分かれています。左側が資産項目(資産の部)、右側が負債項目と資本項目(負債・純資産の部)です。

資産の部には、文字どおり保有している資産の内訳と合計が示されています。資産を保有するには資金が必要ですから、資産の部では資金を何に使っているのかが分かるのです。負債・純資産の部では、資産を保有するために必要な資金をどのように調達しているかを示しています。

棚卸資産は不良在庫に注意
ここでは、貸借対照表の中で特に着目すべき5つの勘定科目と見方を挙げて説明します。
①現預金
現預金とは、手持ちの現金や普通預金・当座預金などに預けられているお金のことです。現預金を見る際には、平均月商の何ヵ月分の現預金を保有しているか確認しましょう。一般的に、

多ければ多いほど、資金繰りは良好であると考えられます。

①売掛金
売掛金は売上が発生したものの、まだ回収できていない債権のことです。

現預金と同じように、売掛金も平均月商の何ヵ月分保有しているかを見ます。平均月商の1〜3ヵ月程度なら基本的に問題ありませんが、3ヵ月を超える場合は、売掛金の中に回収不能のものが含まれている可能性があります。

②棚卸資産
商品や製品のほか、原材料・貯蔵品、仕掛品などを総じて棚卸資産といえます。在庫という名称でよく言い表わされます。販売されはじめて売上となりかつ回収されることで資金になります。棚卸資産も平均月商の何ヵ月分

あるか確認しましょう。一時的な増加ならよいのですが、長期化している場合は、不良在庫が存在している可能性があります。

貸付金はないほうが良い

③長・短貸付金
1年以内に返済が予定されているものを短期貸付金、1年を超えて返済が予定されているものを長期貸付金といいます。

長・短貸付金はないほうが良いのですが、長・短貸付金が存在する場合には貸した相手と発生理由を確認しておきましょう。

④長・短借入金
1年以内に返済が必要なものを短期借入金、返済期日が1年超のものを長期借入金といいます。

長・短借入金の額は少ないほうが良いのですが、企業の多くは借入金により資金調達を行っています。金額が多い場合は、返済負担が間違いなく資金繰りを圧迫しています。平均月商対比で6ヵ月を超えていけば、返済負担が重いと考えてよいでしょう。



●損益計算書のサンプルと見方のポイント

科目	金額
売上高	564
売上原価	395
売上総利益	169
販売費および一般管理費	135
営業利益	34
営業外収益	2
受取利息・配当金	1
その他	1
営業外費用	10
支払利息	9
その他	1
経常利益	26
特別利益	5
特別損失	6
税引前当期純利益	25
法人税等	12
当期純利益	13

過去数期と比較し、売上高が増加しているか、減少しているか確認する

過去数期の売上高営業利益率を算出し比較。年々増加しているか、減少しているか確認する

当期純利益の推移と合わせて、他の科目も合わせて検証する

② 損益計算書の見方のキホン
売上高・営業利益・当期純利益の推移を見てトレンドを検証しよう



損 益計算書とは、半年や1年間といった決算期間における事業活動の成果を表す、いわゆる成績表です。英語で「Profit and Loss Statement」と表記されることから、略称で「P/L」とされます。

事業活動によりどれくらい売上があつたか、売上をあげるためにどれくらい費用がかつたか、その結果、どれくらい利益を確保することができたかを示しています。「黒字だった」「赤字だった」という言葉をよく耳にすると、利益あるいは損失が出ていることを意味します。

損益計算書は、決算期間という限定された期間の成果を示しているわけですが、別の言い方をすれば限定された期間の成果しか分か

りません。特殊な一過性の事情が起きると、成果が大きく左右され、異常な数値が出る場合があります。通常の事業活動を把握するには、過去数期分の損益計算書を見て、トレンドを検証しなければなりません。

過去から最近までの推移を見ることで、成長しているのか、それとも衰退しつつあるのか、おまかにせよ、把握することが可能です。金融機関において取引方針を策定する際には、それが重要な指標になるのです。

上から順に計算していく

ここでは、簡単に損益計算書の構成を見てみましょう。

① 売上高

損益計算書のトップに記載されるのは「売上高」です。決算期間

中の事業活動によりどのくらい売上があつたのか、総計が売上高として示されます。

② 売上総利益

売上高の次には、売り上げた商品や製品を入手するために直接要した費用が「売上原価」として示されます。具体的には、販売した商品を仕入れるために要したコストや、販売した製品を製造するために要した製造コストなどです。

売上高から売上原価を引いたものが「売上総利益」であり、売上原価の次に示されます。売上総利益は粗利益といわれることがあります。

③ 営業利益

売上総利益の次には、「販売費および一般管理費」が計上されます。販売費とは、販売に関する経費で販売活動に要したコストであ

り、一般管理費とは、企業全体を管理・運営するために要したコストです。販売費と一般管理費を合わせて計上し、名称を短縮して販管費といふことがあります。代表的な費用は、人件費や家賃、各種支払手数料、減価償却費等です。

④ 経常利益

営業利益に預金の利息などを加算し、借入金の支払利息などを減算したものが「経常利益」です。預金も借入金も事業活動を資金面で支える必要不可欠なものですから、これらによる収益・費用を加味した経常利益は、まさに事業活動全般を通じて得られた利益といえます。

⑤ 当期純利益

例えば、不動産の売却などによって得られた損益のことを「特別利益」「特別損失」といいます。経常利益からこれらを加減算した

ものを「税引前当期純利益」といい、法人税等を差し引いたものを「当期純利益」といいます。

最初に売上高の増減を確認

損益計算書を見る際に、特に着目すべきポイントは3つです。

1つ目は売上高の推移です。最初に売上高が増加しているか減少しているか確認するとよいでしょう。

2つ目は営業利益の推移です。事業活動のうち本業で得られた利益水準が分かります。

営業利益については、売上高営業利益率の推移を確認しておくことが重要です。売上高営業利益率は営業利益を売上高で割って算出します。売上高営業利益率が年々増加しているか、年々減少しているかを見ておきます。

3つ目は当期純利益の推移です。最終利益を示す数値ですから重要といえるのですが、特別損益が反映されてしまうため、他の科目も合わせて検証することが必要です。